

胃癌（進行・再発）

3rd Line

# Nivolumab療法

( )コース目

患者ID: @PATIENTID

患者氏名: @PATIENTNAME

身長 (cm)	体重 (kg)	体表面積 (m <sup>2</sup> )
\$HEIGHT01_Doc	\$WEIGHT01_Doc	#VALUE!

投与スケジュール: 1コース 14日。

使用基準: 適正使用ガイドに準じる。

**開始前に甲状腺機能の確認のため、乳腺甲状腺外科へコンサルテーションすること。**

PS:0~1、白血球数 $\geq 2,000/\text{mm}^3$ かつ好中球数 $\geq 1,500/\text{mm}^3$ 、Plt $\geq 100,000/\text{mm}^3$ 、Hb $\geq 9.0\text{g/dL}$   
血清Cre $\leq 1.5 \times \text{ULN}$  or 予測Ccr $\geq 40\text{mL/min}$ 、ALT, AST $\leq 3.0 \times \text{ULN}$ 、T-Bil $\leq 1.5 \times \text{ULN}$

※ **投与中**はVital singのチェック(Monitor装着を推奨)

※ **Infusion reaction**に要注意

重度のInfusion reaction (アフィラクシ様症状、血管浮腫、気管支痙攣、発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧等)が発現することがある。**2回目以降**の投与時に初めて発現することもある。

※ 間質性肺疾患があらわれ、死亡に至った症例も報告されているので、初期症状（息切れ、呼吸困難、咳嗽、疲労等）の確認及び胸部X線検査の実施等、観察を十分に行うこと。また、異常が認められた場合には本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。月1回程度、KL-6・胸部X-pの検査をすること。

※ 定期的に心電図の検査をすること

※ 肝機能障害に注意すること

※ 甲状腺機能障害に注意すること。甲状腺機能障害があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与期間中は定期的に甲状腺機能検査（TSH, 遊離T3, 遊離T4等の測定）を実施すること。本剤投与中に甲状腺機能障害が認められた場合は、適切な処置を行うこと

※ 肝炎ウイルス検査を行うこと

※ **体重30kg未満の患者には総液量100mLにすること**

## 《 使用薬剤 》

ニボルマブ: ニボルマブ (100mg/10mL・20mg/2mL)

投与量:

薬剤	標準投与量	計算値 (mg)	投与量 (mg)	投与日
ニボルマブ	240mg/body	240.0		1

<< タイムスケジュール: 開始時刻 >>

**※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。**

7月12日 (月)	0時00分	①	生理食塩液 50mL 血管確保用に速度適宜に点滴静注	
	0時15分	②	生理食塩液 100mL + ニボルマブ注 <b>mg</b> <u>0.2<math>\mu\text{m}</math> or 0.22<math>\mu\text{m}</math>のフィルター一体型輸液セットを使用する</u> 30分で点滴静注 ※体重30kg未満の患者には総液量100mLにすること	0.0mL
	0時45分	③	生理食塩液 50mL (①残薬の使用可) フラッシュ	

## REFERENCE

Yoon-Koo Kang, Narikazu Boku, Taroh Satoh, et al; Articles Publish Online October 6, 2017

Nivolumab in patients with advanced gastric or gastro-oesophageal junction cancer refractory to, or intolerant of, at least two previous chemotherapy regimens (ONO-4538-12, ATTRACTION-2): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial

化学療法プロトコール委員会 迅速審査承認: 2017年12月11日 更新: 2018年9月10日